

保健医療技術学部 学部基幹科目 (2022年度以降第1学年次入学者適用)

区分	科目	履修開始メス	1	2	3	4	5	6	7	科目概要
			建学の理念に基づいて、共生と平等、人間尊重、平和への希求を体现し、人類の進歩に貢献する力を有している	医療人として常に人の側にとって、人とともに人生の苦しみとたたかう強い意志や意欲を有している	医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している	医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している	研究の面白さや研究的思考方法の基礎を修得することによって、将来、臨床とともに研究も行いうる資質をもっている	互いの専門性の理解のうえにたつた対等な立場でのチーム医療や連携実践のあり方を追求する能力を有している	今後のさらなる医学・医療・保健の高度化・国際化・情報化に対応して活躍する力をもっている	
学部基幹	医療概論	1		◎	○			◎	◎	保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況の中、医療チームの成員が互いに協力して、総合的サービスを提供することが重要である。一つの問題に対して、多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。良好な医療チームの形成は、他の専門職種を理解することから始まる。医療に関わるスタッフのそれぞれの学問体系、役割、機能、権限などを知り、相互理解を深め、症例を通して連携の方法論とチームダイナミクスについて考察する。模擬患者を利用し、カンファレンス、記録のあり方、チームによる全人的アプローチなどについて学ぶ。

看護学科 専門科目（2022年度以降1年次入学者適用）

区分	科目	履修開始メスタ	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科基礎	入門ゼミ	2	◎	○					「専修学習のための日本語表現」での学びを活かしたうえで、大学で主体的で自律的に学ぶための、基本的な学び方（課題発見、課題に応じた情報や文献の探索、読解及び内容の要約、officeを活用したレジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。
	基礎解剖学	1		◎	○				解剖学は、生物体の正常な形態と構造とを研究する学問であり、医学の領域では人体解剖学を指す。この人体解剖学では、人間の身体づくりや形について学ぶが、その基礎は構造を明らかにすることにあり、人体の構造全般について教授する。
	基礎生理学	1		◎	○				生理学は、生物の生理機能を研究する生物学の一分野であり、医学では解剖学・形態学と対置されるものであると同時に、病理学と対義的に用いられることもある。このような生理学は、生命現象のありのままを研究するものであり、内分泌生理学、細胞生理学、神経生理学、電気生理学、大脳生理学などの分野があるが、これらの基礎的な部分を教授する。
	栄養学	2		◎	○				栄養学とは、食品やその中の成分、栄養素がどのように人間の体の中で利用され、影響を及ぼしているかを研究する学問であり、近年では栄養状態が医療行為を行う上でも重要視されている。それは、生命維持のために必須であるだけでなく、生活活動や健康の維持・増進に必要な物質を外界から取り入れ、これを利用する現象全体として位置付けられる。この栄養学について医療および看護に関連させて講義する。
	病理学概論	2		◎	○				病理学とは「病気の原因、患者の徴候や症状をもたらす発生機序を研究し、臨床と基礎の架け橋となる学問」である。「病理学概論」では、看護に必要な医学の基礎知識として、病気の成り立ちとその回復過程について学ぶ。
	公衆衛生学	3		◎		○			公衆衛生学とは「組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長、および肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術」である。疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み、疫学研究手法、主要疾病の疫学と予防などについて学習し、そのことを通じて現在の世界における公衆衛生上の課題を理解し、考察することができるようにする。
	社会福祉	2		◎			○		社会のなかで、だれもが生き生きと豊かな生活を送るために必要な社会福祉について学ぶ。社会福祉とは何か、社会福祉の概念・理念、歴史、諸制度など、自らの生活に身近な社会福祉について理解を深める。そのことを通じて、「人が生活する、暮らす」、ということの意味を考え理解を深める。 ① 社会福祉とは何か ② 人間の尊厳と社会福祉の概念・理念 ③ 社会福祉の歴史 ④ 社会福祉の法制度・諸施策 ⑤ 社会福祉の分野 ⑥ 社会福祉の行財政 ⑦ これからの社会福祉
	生化学	1		◎	○				人間が健康に生きていくためには、全身の恒常性を保つことが大切である。恒常性を維持するため、常に外界との間で物質交換がおこなわれており、それが化学的・物理的法則に基づいて繰り返される様々な化学反応に依存したものであることを、生化学の分野から概説する。生体分子の構造と化学的性質、生体触媒である酵素の役割を中心とした生体エネルギー学と代謝、遺伝情報の伝達等について講義する。また、近年は遺伝子診断が広範に実施されている。医療従事者に必要とされる基礎的知識を概説し、あわせて遺伝子検査に関わる生命倫理についても解説する。
	疾病論Ⅰ	2		○	◎				看護に必要な医学の基礎知識として、内科系疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。対象は呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患など。
	疾病論Ⅱ	2		○	◎				看護に必要な医学の基礎知識として、外科系疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。創傷治療、救急医療、麻酔、輸血などの総論に続き、各論として消化器系疾患、心・血管系疾患、呼吸器系疾患、感覚器系疾患、筋・骨格・運動器系疾患など。
	疾病論Ⅲ	3		○	◎				看護に必要な医学の基礎知識として、疾病論Ⅰに引き続いて、内科系疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。対象は脳・神経疾患、血液疾患、腎・尿路疾患、感染症、自己免疫・アレルギー性疾患、皮膚疾患など。また、小児領域の疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。
	疾病論Ⅳ	3		○	◎				看護の展開に必要なとされる医学的基礎知識として、母性・精神領域の疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。

区分	科目	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科基礎	感染免疫学	2		◎	○			○	感染症疾患やアレルギー・免疫疾患の近年の傾向を知り、在宅および病院・施設内において発生する感染症疾患やアレルギー・免疫疾患に関する問題を理解する。その上でそれらの予防対策と対処方法について、具体的な注意点や他職種との連携の仕方などについて学ぶ。
	仏教看護論Ⅰ	1	◎	○					仏教の教えに基づく看護を学ぶにあたり、「人間の生を支える」という視点に立ち、仏教に説かれている医学・看護について学ぶ。そこでは、仏教の世界観・人間観・人生観を理解し、医学については、古代インド、中国の伝統医学と西洋医学との違いについて学ぶ。
	仏教看護論Ⅱ	1	◎	○					仏教の受容と日本人の死生観（人間観・人生観）を考察する。その上で、日本における看護の前身に着目し、古代より展開されてきた仏教を介した看護・福祉・ケアの事績をたどりながら、その意義や価値について学ぶ。
	薬理学	3		◎	○				薬物の作用機序、生体反応、体内動態の基本的原理の総論的な学びの後で、自律神経作用薬、心血管作用薬、呼吸器作用薬など各種薬物の代表的なものについて、作用機序、体内動態、薬理作用と適応症状・副作用を学ぶ。これらの学習により実践の場で薬理効果の確認、副作用の早期発見や投薬ミスの防止に役立てる。
	保健統計学	4		◎	○		○	○	保健医療分野におけるさまざまな解析事例を通して、保健統計とその見方、統計手法の基本原理とその有効性、研究デザインとデータ収集法など、保健医療分野における代表的な統計技法について学ぶ。
学科専攻	看護学概論	1	○	◎	○				看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の抽象的であるが看護学において重要な4つの概念を、その関連性を含め具体的なイメージとして理解していく中で看護学の豊かさや奥深さに気づき、看護の基本的な考え方、つまり看護の本質について学ぶ。また、看護の歴史の変遷や看護の専門性を問う中で、医療や社会における看護の役割や責任の意味を学ぶ。
	看護実践基盤技術論	1	○	○	◎				あらゆる健康レベルにある対象への看護実践の基盤となる基本技術を学ぶ。看護技術の概念を理解した上で、観察技術、人間関係を成立・発展させるための技術、姿勢・動作の基本技術、活動と休息の援助技術、生活環境を整える技術、感染防御技術（スタンダードプリコーション）などの基本技術をリフレクションし、系統的、集積的に学ぶ力を養う。
	フィジカルアセスメント技術	2	○	○	◎				看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を理解し、頭部から足先までの全身状態を観察するフィジカル・イグザミネーションの基本技術（視診・触診・打診・聴診等の技術）を修得する。さらに、基本技術によって得られた情報に基づいて対象の全身状態をアセスメントする能力を養う。
	生活行動援助技術論	2	○	○	◎				エビデンスに基づく安全・安楽・自立に配慮した日常生活行動援助（ベッド内環境を整える援助、衣生活の援助、身体の清潔を保つ援助、食事の援助、排泄の援助）の基本的知識・技術・態度を学ぶ。さらに、対象の健康状態をアセスメントして個別に合わせた日常生活行動援助の方法を立案し、技術を統合して実践できる能力を養う。
	看護過程論	2	○	○	◎				専門的な看護実践の基本となるクリティカルシンキングを基本として、臨床判断の最も基本となる看護過程の理論および方法を学ぶ。対象の個性に基づいて有効な看護実践を進めていくための基本的な思考過程（情報の解釈、分析、看護計画立案、実施、評価）を学ぶ。
	看護過程実践論	3	○	○	◎				「看護過程論」で学んだ基本的思考過程に基づいて、ペーパーベース情報を用いて実践的に看護過程を展開する能力を養う。さらに模擬患者を対象に看護援助を実践・評価し、看護実践を展開する循環的思考過程を学ぶ。
	診療援助技術論Ⅰ	3	○	○	◎				健康上の問題を持つ対象が安全に安楽に診療が受けられるよう、診療援助に必要な無菌操作をはじめ、点滴、尿道カテーテル、経管栄養、酸素療法などの技術と、それらによって影響をうける生活行動の援助を学ぶ。
	診療援助技術論Ⅱ	4	○	○	◎				健康上の問題を持つ対象が安全に安楽に診療や検査が受けられるよう、診療に関連する基本的な知識と技術を学ぶ。侵襲が大きく、より安全に配慮する必要がある与薬、注射、生体検査、医療安全について学ぶ。
	基礎看護学実習Ⅰ	2	◎	○	○				健康上に問題があり日常生活に支障を来している個人（患者）を理解するために、既習した観察や生活行動援助技術、コミュニケーション技法を積極的に活用し、援助的関係性を構築する。また、看護活動の場や看護の実際を見学し、生活援助を看護師とともに実施する。さらに、看護師の役割と責務、多職種連携の観点から医療チームにおける看護の機能について学ぶ。
基礎看護学実習Ⅱ	3	○	○	◎				健康上に問題がある個人（患者）との人間的な関係性や援助的な関係性を形成しながら生活者としての患者理解を深める。また、各分野実習の基礎となる看護過程の展開方法を用いて、患者の健康状態を把握し、患者の健康を最大限に回復・維持・促進するために必要な看護を実践する。また、入院生活・疾病が患者に及ぼす影響について理解し、対象者の状態に応じた看護計画を立案し、実施・評価するとともに、多職種連携の視点から医療チームの一員として、看護師の役割や責務を理解する。	

区分	科目	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	コミュニティ実習	1	◎			○			生活の場である地域の現状をみることで、地域で支え合って暮らすことについて理解する。また、地域で暮らすすべての人々の生活環境と健康状態を関連させて地域における看護について考える。
	成人看護学概論	3		◎	○				成人各期の対象の発達段階や発達課題を理解し、成人期に特有な生活習慣、仕事、セクシャリティ、生活ストレス等と関連した健康障害の予防、健康回復や心身の安寧に対応した看護について学ぶ。また、多様な価値観や健康観をもち、さまざまな健康障害レベルにある生活者としての成人への看護に有効な概念を学習する。
	クリティカルケア看護学Ⅰ	4		○	◎		○	○	クリティカルケア看護の多様な場を理解し、急激な生命の危機状態や健康破綻を来した対象の健康問題、臨床判断に基づいた看護実践について学ぶ。また、侵襲下にある対象への看護実践に活用できる理論、倫理的視点、多職種連携についても学ぶ。 ICT活用、共同学習により学びを深める。
	クリティカルケア看護学Ⅱ	5		○	◎		○	○	侵襲下にある周術期の各期に応じた看護課程・シミュレーション演習を通して、臨床判断に基づく具体的な看護実践を学ぶ。また、過大侵襲下におけるクリティカルケア看護についても学ぶ。 ICT活用、共同学習により学びを深める。
	慢性看護学Ⅰ	4		○	◎		○	○	慢性の病気をもち生活する人や緩和ケアを必要とする人とその家族の身体的・心理社会的特徴を理解し、対象に応じたセルフケア支援を行うために、病態生理や治療などの基礎知識をふまえた看護の方法や慢性看護の基盤となる理論とその活用方法を学ぶ。
	慢性看護学Ⅱ	5		○	◎		○	○	慢性の病気（がんを含む）をもち生活する人や人生の最終段階にある人とその家族の特徴を理解し、セルフケア支援やエンドオブライフケアに必要な知識やコミュニケーションなどの看護技術を習得する。また、臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、事例を用いて、発達段階をとらえた健康障害の理解と対象把握から看護の実践・評価に至るまでの思考プロセスを学ぶ。
	クリティカルケア看護学実習	6		○	◎		○		急激な健康破綻を来した患者・家族のクリティカルケアが必要な状況を理解するとともに、侵襲からの回復や生活の再構築に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。具体的な実践場面の振り返りから、臨床判断や多職種連携の中での看護の役割を理解する。 学内演習やICT活用により学びを深める。
	慢性看護学実習	6	○	○	◎		○		慢性の病気（がんを含む）をもつ患者および人生の最終段階にある患者とその家族を対象とした看護実践に必要な知識・技術・態度を実践を通して学ぶ。 既習の理論や知識・技術を活用し、対象の健康上の諸問題を把握するとともに、症状コントロールや心理的安寧を図り、患者・家族が折り合いをつけながら療養を継続できるよう支援するための臨床判断を含む看護実践能力を養う。また、慢性看護における看護の継続性や多職種連携・協働の実践についても学ぶ。
	老年看護学概論	3		◎	○		○	○	地域・在宅・療養の場など様々な場で暮らす高齢者の看護実践者となるために、高齢者の心身の特徴と多様な健康・生活ニーズについて、動画教材やICTを活用しながら体験的に学ぶ。加えて老年看護の特性・独自性についてアクティブラーニングを通して能動的に理解を深め、高齢者の健康とその人らしい生活を支える老年看護実践の基盤となる力を身に着ける。
	老年看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○		老年期に起こりやすい心身の健康障害の特徴を理解すると共に、認知症者を含む高齢者への具体的な看護援助や、コミュニケーション方法についての体験学習をする。更にディスカッションを通して、老年看護を行う視点と臨床判断力・倫理観を身に着ける。
	老年看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		これまで既習した学びを基に、老年期に起こりやすい症状や高齢者のセルフケア能力について、反転授業・協働学習を通して理解を深める。また、健康障害をもつ高齢者や認知症者の看護に必要な知識や援助技術に関して、ロールプレイやシミュレーション演習と、その後のディブリーフィング・リフレクションにより習得する。更に、健康障害を抱える高齢者の代表的な事例を取り上げ、老年期の特徴および対象の発達段階をとらえた健康障害について、臨床判断モデルを使って理解を深め、多職種連携を踏まえた看護展開方法を身に着ける。
	老年看護学実習	6		○	◎		○	○	地域包括ケアシステムのもと、地域や療養の場における認知症高齢者に対して、医療チームの一員としてケアマネジメントできる基礎的能力を身に着ける。療養の場として地域包括ケア病棟・回復期ケア病棟に入院する認知症高齢者の在宅退院支援への看護実践と地域における介護老人福祉施設に入所する認知症高齢者の看護実践について多職種と協働しながら実習を行い、個性のある看護援助の展開を行う。特に認知症高齢者を受け持ち、認知症看護の実践力を高めると共に家族を含めた看護援助や在宅療養を見据えた援助の必要性についても理解し、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割や責務を理解する。

区分	科目	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	小児看護学概論	3		◎	○	○			現代社会における子どもとその家族の健康上の問題や小児看護の特性を学ぶ。主な内容として、子どもの権利、小児看護の概念、母子保健の動向と対策、小児看護の変遷と課題、小児の成長・発達段階に応じた援助、小児看護の機能と役割、小児看護が展開される場の多様性について学ぶ。
	小児看護学方法論Ⅰ	4		○	◎		○		さまざまな状況や健康障がいがある子どもとその家族に対して及ぼす影響について理解し、看護援助の内容や方法について講義や演習を通して学ぶ。 内容としては、子どもの発達段階を踏まえて、健康障がいがある子どもと家族へ及ぼす影響、検査・治療における子どもの看護、心身障がい児の看護、事故防止と感染予防などについての知識と看護援助の方法について学習する。 また、施設・地域・在宅など様々な場で生活する子どもと家族に対して必要な看護や多職種連携についても学びを深める。
	小児看護学方法論Ⅱ	5		○	◎		○		子どもの成長発達と健康生活を促進するために必要な知識や技術を習得する。とくに、健康障がいをもつ子どもと援助関係を形成するために必要な遊びやコミュニケーション、プレバレーションの技術を習得する。さらに、健康障がいをもつ子どもの代表的な事例を取り上げ、子どもの特徴および発達段階をとらえた健康障がいの理解と、看護過程の展開方法について学び、臨床判断能力を養う。 授業にICTや共同学習を取り入れながら学習効果を高める。
	小児看護学実習	7		○	◎		○		「子どもの権利」の尊重を基盤にして、健康な子どもを理解するとともに、健康を障がいされた小児とその家族に応じた看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 幼稚園実習では、地域で生活する子どもとの関わりを通して、健康な子どもの成長・発達の特徴を理解するとともに、コミュニケーション力を養う。 病院実習では、健康障がいや入院が子どもと家族に及ぼす影響について理解し、アセスメントを通して、臨床判断能力を養い、看護計画に基づき看護を実践、評価する。 健康な子ども及び健康障がいをもつ子どもと家族を支えるために必要な多職種連携について理解する。 上記内容について、学内演習やICTも取り入れながら学習効果を高める。
	母性看護学概論	3		◎	○	○			母性看護の概念、母性看護の歴史の変遷、関係法規等について学ぶ。また、女性のライフサイクルにおける各期の健康上の特徴、生涯にわたる健康の維持・増進、疾病予防への援助、女性をとりまく社会の現状と課題、母性看護が展開される場の多様性や看護支援について理解するとともに、母性看護の役割や課題についても学ぶ。
	母性看護学方法論Ⅰ	4		○	◎		○		周産期にある事例を通して妊産婦の身体的・精神的・社会的特徴および新生児の特徴について学ぶ。また、対象の正常な経過を理解したうえで、適切な看護が安全・安楽に行われるための知識と援助方法について学ぶ。 授業にICTや共同学習を取り入れながら学習効果を高める。
	母性看護学方法論Ⅱ	5		○	◎		○		演習等を通して、産後の継続的ケア、保健指導など基本的な母性看護技術、コミュニケーション力を習得する。また、妊娠から産褥期を通じた事例を取り上げ対象者の全体像および発達段階をとらえ看護過程の展開を行なうことで看護判断能力を養う。
	母性看護学実習	7		○	◎		○		周産期にある女性とその家族との関わりを通して、家族の発達や女性のライフサイクルにおける母性看護の役割について理解する。また、地域における母性看護の役割や継続看護、妊産婦を取り巻く多職種連携の必要性を理解する。 妊娠・出産・産褥各期の女性の特徴および新生児の生理的特徴を理解したうえで観察・アセスメントを通して臨床判断能力を養い、コミュニケーション力を発揮し必要な看護援助を実践する。
	精神看護学概論	3		◎	○	○			精神の健康を理解するための諸概念を学習し、対人関係やライフサイクルが精神の健康に及ぼす影響について理解する。主な内容は、精神看護の基本理念、精神医療・看護の歴史の変遷、精神保健福祉の法制度、現代社会における精神看護の動向や機能・役割と家族、集団、社会のダイナミクスについて理解する。
精神看護学方法論Ⅰ	4		○	◎		○		精神科における検査や治療、リハビリテーション等、精神医療の基礎知識を学ぶ。 様々な精神疾患や精神障害についての基礎知識をふまえた上で、アセスメントや看護のポイントを学ぶ。 自己のコミュニケーションを振り返り、援助関係について学ぶ。	
精神看護学方法論Ⅱ	5		○	◎		○		精神の健康に障害をもつ人の病的特徴を理解し、対象との治療的コミュニケーション、セルフケアの援助のための基本的な看護の知識と技術を習得する。また、精神に障害をもつ人の代表的な事例を取り上げ、対象の精神症状をふまえた看護過程を展開する。	

区分	科目	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	精神看護学実習	7		○	◎			○	精神の健康に障害を持つ対象者を身体的、心理・社会的側面等、多面的に理解し、人権を擁護しながら地域生活へつなげていくための看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 対象者との対人関係のプロセスを振り返り、治療的関係の重要性を学ぶ。また、精神科医療における治療や治療環境の特殊性を理解し、看護師の役割や責務を理解する。さらに、精神障害者の退院促進と地域生活支援の方法、看護師と他職種との連携や家族への支援について理解する。
	地域・在宅看護学概論	2		◎	○	○	○		地域で暮らす人々の健康にかかわる在宅看護の特徴や機能、看護の役割について理解する。主な内容は、在宅看護の歴史の変遷、在宅看護の機能と特徴、療養者とその家族のニーズ、在宅看護に関連した社会制度や地域ケアシステム、保健医療福祉の関連職種との連携・協働、在宅看護の現状と課題について学ぶ。
	地域・在宅看護方法論Ⅰ	3		○	◎	○	○		地域で生活している在宅療養者とその家族に対し、在宅看護が実施される場と活動の特性を踏まえ提供される看護について学ぶ。また、在宅看護における看護過程の展開方法について学ぶ。さらに、在宅における療養環境、食事、排泄、清潔、移動・運動についての生活支援や家族支援の方法を学ぶ。
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	4		○	◎	○	○		療養者とその家族の生活の場である在宅でのリハビリテーションやターミナルケア、在宅で医療的管理を必要とする人の医療処置・安全管理に伴う看護、合併症の予防と生活指導についての知識と技術を学ぶ。また、在宅で療養する人の症状・状態別の看護、治療・処置に伴う援助技術についての臨床判断能力の基礎的能力を養う。
	地域・在宅看護実践論	4		○	◎			○	医療的処置や看護が必要な対象者への援助方法について演習を通して実践力を養う。代表的な事例を取り上げ、在宅で療養する人とその家族の生活上の問題などをふまえた看護過程を展開する。さらに、家庭訪問におけるコミュニケーションを活用した面接方法、療養者や家族に対する相談・指導の方法、社会資源の活用などについても学び、対象者への援助について演習を通して実践力を養う。
	地域・在宅看護学実習	7		○	◎	○		○	在宅ケア連携システムの概要を学ぶとともに、地域で生活している在宅療養者とその家族への理解を深め、生活の場で看護実践するために必要な知識や技術を学ぶ。 また、訪問看護事業所と地域包括支援センターの機能と役割・運営、在宅療養時のケアの連携システム、看護師と保健・医療・福祉の他職種者との連携や社会資源の活用についても理解する。
	公衆衛生看護学概論	4		◎	○			○	公衆衛生看護の歴史の変遷、公衆衛生看護の概念、公衆衛生看護の意義を知り、保健・医療・福祉との関連から公衆衛生看護の位置づけを理解する。また、公衆衛生看護活動の展開の場とその業務概要を把握し、地域における健康問題が起こる背景および公衆衛生看護の活動の概要を学ぶ。
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	4		◎	○			○	地域に生活する対象者のライフサイクルや健康課題に応じた支援の基本的な考え、アプローチ方法について学ぶ。また、公衆衛生看護の対象を個人・家族に加えて、人々の集合体である集団として把握し、集団や地域全体を対象に活動することの特徴を学ぶ。
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		人々が自らの健康を維持・増進し、生活の質を高めていくことができるように、保健行動や保健指導、健康相談の基本的な理論と方法を学ぶ。また、健康教育の理念や理論について理解し、健康教育の企画から実施、評価までのプロセスと方法について学ぶ。
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	5		○	◎		○		様々な健康段階にある人々の健康的な生活を支援するために必要な技術を学習する。家族を単位とした援助の基本と重要性を理解し、家庭訪問の展開方法を学ぶ。また、健康診査について学ぶ。
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	5		○	◎		○		学校における児童・生徒や場の特徴、健康課題を理解し、個人・家族、学校組織を対象とした保健活動を学ぶ。また、産業における労働者の健康生活の特徴、健康課題を理解し、労働者個人・集団、組織を対象とした保健活動について学ぶ。
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	5		○	◎		○	○	地域診断の視点と方法の基本を学ぶ。公衆衛生看護活動は、地域の特性や健康状態を把握することからはじまる。地域の情報収集・分析、顕在的・潜在的な健康課題を抽出する。地域での活動の方向性を検討する。
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	5		○	◎		○	○	公衆衛生看護活動の組織や財政のしくみ、管理、評価、社会資源の開発、健康危機管理など、公衆衛生看護管理について理解する。また、地域住民、関係機関や他職種との連携、グループ支援、地区組織への支援、地域ケアシステムの構築、施策化について理解する。
公衆衛生看護活動論	7			○		◎	○	○	地域の健康課題を把握し、問題解決のための地域保健活動を実践するための能力を身につける。そのために、地域特性をふまえた地域診断のプロセスを学び、地域診断に基づく活動計画を策定、展開、評価する視点と方法を学ぶ。

区分	科目	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7		○	○	○	◎	○	産業保健現場での見学・体験を通じて、労働者の健康の視点から就労生活と健康問題について学ぶ。労働と健康問題の関連を考えながら、個人・集団・組織への支援の展開を学ぶ。また、学校保健現場では児童、生徒の健康生活の実際を知り、特性と課題、支援に関する基礎を学ぶ。
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	7		○	○	○	◎	○	保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の見学、体験を通して、地域住民の生活と地域の健康課題を理解する。また、各種保健事業を通じて、個人・家族・地域のセルフケア能力を高めるための援助方法を学ぶ。さらに、地域の社会資源との協働と保健師の役割を理解する。最終的に、公衆衛生看護学実習での学びを通じて、公衆衛生看護の意義、保健師の役割と責務を考える。
	国際看護学	5				○	○	◎	諸外国の社会、経済、教育、文化的な背景の相違の理解のもとに、世界の健康問題と看護の現状・課題について学ぶ。また、開発途上国の人々の主な健康課題と、貧困を基盤とする健康に影響を与える要因について構造的に理解する。授業にICTや共同学習を取り入れながらコミュニケーション能力の向上をはかり、学習効果を高める。
	災害看護学	5				◎	○		災害の定義、災害に対する支援制度とシステム、災害サイクルにおける災害予防と応急対策、救急体制とトリアージ、災害復旧・復興各期における対策の概要や看護の役割を学ぶ。また、災害が被災者・支援者へ及ぼす影響を理解し、両者の生活支援やQOL向上に向けての支援について学ぶ。ICTや共同学習を取り入れて以上の学びを深める。
	看護倫理学	7		◎	○				臨床における倫理問題を考えるための倫理原則、ケアリング倫理等について学ぶ。 ① 倫理的意思決定のステップをたどる ② 実習で気づいた倫理問題をグループで検討する ③ 各看護領域に特徴的な倫理問題について学ぶ
	看護研究Ⅰ	7				○	○	◎	看護研究の意義、研究成果の公表の必要性、看護研究における倫理的な配慮、看護研究のトピックス、看護専門職者としての研究に関する生涯学習の必要性を理解する。また、質的・量的な研究方法論、ICT活用による適切な文献検索やクリティークの方法、研究テーマの絞り込み、研究計画書の作成、学術論文のまとめ方などについて学ぶ。
	看護研究Ⅱ	8				○	○	◎	研究計画書を再検討し、倫理的な配慮のうえで、研究計画書に沿って実践し、その成果を論文としてまとめる。
	統合実践看護実習	7				○	○	◎	看護学の学習を土台に、学生各自が医療や看護の今日的テーマや課題を選定し、学習課題を探究する実践過程を通して看護実践能力の向上を図る。 学生各自がテーマ・学習課題を明確にし、科学的思考に基づいた看護実践を展開する。さらに、保健・医療チームの一員としての行動を心がけ、専門的な実践活動について主体的に学ぶことにより看護観を深め、自己の看護活動の発展の方向を考えるきっかけとする。
関連	看護疫学	4		◎	○	○			疫病に限らず自殺や事故の多発現象など、人間集団の疾病や健康事象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼしている要因や条件を分析し、有効な対策を計画し、対策の評価を行うという科学的な思考とその一連の方法について学ぶ。
	臨床心理学	3	○	◎	○				幼小児期から壮年・老年期までの生涯発達という捉え方を基礎にして、各発達期を相互に関連付ける時系列的な理解をするとともに、生活を医療・福祉にとらわれずに幅広く捉える空間的理解の相互作用の中で統合する視野を身につける。また各発達段階での課題達成の状況が障害を抱えた際にどのように影響してくるかを自己決定、自立をキーワードにして学ぶ。
	保健医療福祉行政論	3		◎		○	○		国と地方における保健医療福祉に関する政策の連携、行財政の実態と問題状況を理解しつつ、地域における保健医療福祉の課題を認識する。その上で、市町村の地域福祉力の展望を模索し、21世紀における地方の保健医療福祉社会のパラダイムについて理解を深める。
	エンドオブライフケア論	5			○		◎		エンドオブライフケアとは、死を迎える人や、あるいはいつか来る死について考える人が、最期まで最善の生を生きる事ができるように支援することである。また、そのケアでは、老いや病を抱えながら生活続ける人々の「その人らしさ」や「生き方」を探究することを支援することが重要である。 本科目では、エンドオブライフケアを必要とする人々と家族に対するケアとして、必要な知識・技術・態度を習得する。具体的には、自分も含めた人の死についての考えを内省するとともに、死を意識した人々に対する全人的苦痛の緩和や意思決定支援、家族ケアやグリーフ・ビリーフメントケア、多職種による支援のあり方について学ぶ。
	看護管理学	8				○	◎		質の高いケアを提供するための組織構成、情報収集とその処理、人材育成などのマネジメントについて学ぶとともに、今日的な課題や社会情勢を看護の役割・機能の視点から分析し、今後の看護管理のあり方やリーダーシップについて学ぶ。さらに、看護管理の視点から看護実践を振り返ることの必要性を学ぶ。

区分	科目	履修開始メスター	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
関連	看護教育学	8				○	◎		看護師養成教育、看護学教育制度の変遷とその背景について学び、看護学教育の現状と課題を明確にしたうえで、看護学の発展に向けた看護専門職の看護基礎教育や継続教育・卒後教育のあり方を学ぶ。また、看護学修得者としての将来像を描く（キャリアデザイン）機会とする。
	仏教看護論Ⅲ	5	○	◎					ターミナル・ケアに焦点をあて、仏教看護の果たす役割の意義について、その目的や定義ならびに歴史について学ぶとともに、主に近世の臨終行儀書や往生伝をテキストにケース検討を通じて、多様な「生きざま」と「死にざま」についても理解を深めていく。
	仏教看護論Ⅳ	5	○	◎					現代社会が抱える「いのち」をめぐる諸課題に仏教看護は何かができるか？時事問題を取り上げ、講義と演習形式（グループ・ディスカッション等）を通じて、思考の整理を行い、現場実践で必要とされる判断力・協調性について学ぶ。
	ホリスティックケアアプローチ	8		○			◎		人を身体（body）、心（mind）と魂（spirit）が統合され、社会や自然環境との調和の中で生きている全体的（ホリスティック）な存在としてとらえ、科学的視点をもちつつ「癒しの技」を用いてケアをするホリスティックナーシングについて学ぶ。そして、既習の看護理論、看護技術、統合医療としての補完・代替療法、さらに本学の特徴である仏教看護論をふまえて、ホリスティックナーシングとして実践していくための知識と技術と態度を発展的に学ぶ。
	クリティカルケア看護実践論	8					○	◎	クリティカルケアが必要な状況にある患者・家族の看護実践に用いられる理論・概念について探求する。ICT、共同学習により臨床判断能力や看護実践への適用について検討する。
	臨床判断実践論	8			◎		○		症状、病歴、基本的な診察と検査の情報から患者の体や心の中で起こっていることを推論する。そうすることで、看護師は患者の病状を的確に把握し、緊急度や重症度の判断ができ、患者に適切な看護を提供できる。疾患についての「知識」と目の前の患者の「症状」を結び付けるための思考過程である「臨床判断・臨床推論」の基礎を事例で学ぶ。